まち歩きマップ

～近代化遺産を巡るまち歩き～

西桐生駅

昭和3年の開通当時の姿を残す西桐生駅。ハイカラなマンサード屋根、上げ下げ窓の付いた待合室など欧州の小都市の駅といった風情。しかし、宿直室は畳部屋にガラスの引き戸、台所は土間など、全体では和洋折衷の建物。さらには、プラットホームの上屋は木造で、当時の佇まいをそのまま残す。
◎所在地：宮前町2-1-33
◎建築年代：昭和3年（1928）

森合資会社事務所

森合資会社は明治37（1904）年の創業。事務所は大正3年（1914）の建築であり、外観は白磁タイル張の擬洋風建造物。大正3年以前に建てられた隣接する店蔵とともに和洋が一体となっており、一部の建具等に改変が見られるものの、大正期の創建当初の商店建築として価値が高い。
◎所在地：桐生市本町1-3-11
◎建築年代：大正3年（1914）

群馬大学工学部同窓記念会館

群馬大学工学部の前身である桐生高等染織学校が創立されたのは大正5年。当時の本館玄関の一部と講堂が、この同窓記念会館である。昭和47年に現在の場所に移築し復元された。西洋木造建築の技法とデザインの習得が完成した時期のもので、講堂内はハンマービームと呼ばれる独特な屋根構造をもつ。
◎所在地：桐生市天神町1-5-1
◎建築年代：大正5年（1916）

桐生織物記念館

昭和10年前後に織物産業の全盛期を迎え、好況期の頂点の時に造られたのが桐生織物会館である。当時流行していたスクラッチタイル張りの外壁を取り入れ、屋根は青緑色の日本瓦葺。市民がこのスタイルを真似、周囲には同じスクラッチタイル張りの事務所や住宅が見られる。
◎所在地：桐生市永楽町5-1
◎建築年代：昭和9年（1934）

金善ビル

明治36年創業の金善輸出織物工場は、輸出織物で大きな発展を遂げ、工場も東洋織布㈱桐生工場に次ぐ規模となった。二代目の金居常八郎氏が出張所として、建てたのが、鉄筋コンクリート造、地上5階、地下1階の金善ビルであた。五階部分は老朽化のため取り壊され、現在の姿に至る。
◎所在地：桐生市本町5-345
◎建築年代：大正15年（1926）

金谷レース工業

市内で唯一、煉瓦造の鋸屋根工場として残っている建物で、煉瓦壁体はイギリス積み、使用されている煉瓦は埼玉県深谷市の日本煉瓦製造株式会社製である。
一方、事務所は木造二階建てのスクラッチタイル貼りで、水平線を強調したライト建築のよう。窓や細部に至る意匠に時代的な特徴が見られる。
◎所在地：桐生市東久方町1-1-15
◎建築年代：鋸屋根工場／大正8年（1919）
事務所／昭和初期

旧矢野園蔵群

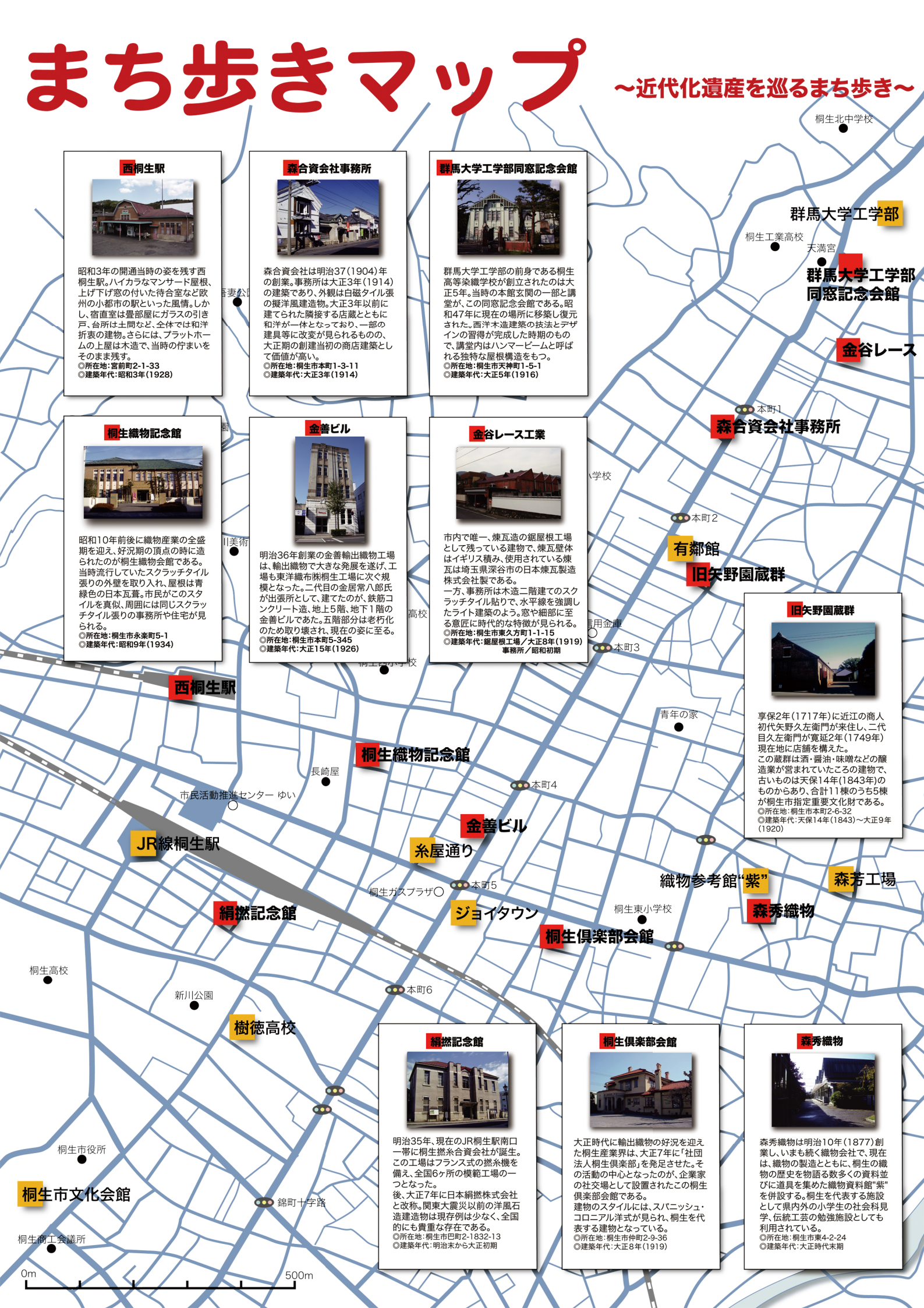
享保2年（1717年）に近江の商人初代矢野久左衛門が来住し、二代目久左衛門が寛延2年（1749年）現在地に店舗を構えた。
この蔵群は酒・醤油・味噌などの醸造業が営まれていたころの建物で、古いものは天保14年(1843年)のものからあり、合計11棟のうち5棟が桐生市指定重要文化財である。
◎所在地：桐生市本町2-6-32
◎建築年代：天保14年(1843)～大正9年(1920)

絹撚記念館

明治35年、現在のJR桐生駅南口一帯に桐生撚糸合資会社が誕生。この工場はフランス式の撚糸機を備え、全国6ヶ所の模範工場の一つとなった。
後、大正7年に日本絹撚株式会社と改称。関東大震災以前の洋風石造建造物は現存例は少なく、全国的にも貴重な存在である。
◎所在地：桐生市巴町2-1832-13
◎建築年代：明治末から大正初期

桐生倶楽部会館

大正時代に輸出織物の好況を迎えた桐生産業界は、大正7年に「社団法人桐生倶楽部」を発足させた。その活動の中心となったのが、企業家の社交場として設置されたこの桐生倶楽部会館である。
建物のスタイルには、スパニッシュ・コロニアル洋式が見られ、桐生を代表する建物となっている。
◎所在地：桐生市仲町2-9-36
◎建築年代：大正8年（1919）

森秀織物

森秀織物は明治10年（1877）創業し、いまも続く織物会社で、現在は、織物の製造とともに、桐生の織物の歴史を物語る数多くの資料並びに道具を集めた織物資料館"紫"を併設する。桐生を代表する施設として県内外の小学生の社会科見学、伝統工芸の勉強施設としても利用されている。
◎所在地：桐生市東4-2-24
◎建築年代：大正時代末期